SAMPLE



バイオレゾナンス検査結果報告書

RESONA-LAB
レゾナラボ



RESONA-LAB は、大切な家族の体のバランスを
やさしく知るための検査です。
日々のごはんや暮らしを整えるための手がかりをお届けします。



免責事項

本検査は、生体反応の解析結果をもとに体の状態を把握することを
目的としたものであり、疾病の診断や治療を行うものではありません。
体調に気になる変化がある場合は、獣医師にご相談ください。

監修獣医師

ANIMAL CLINIC PURE

ANIMAL CLINIC PURE
院長　長 真帆 獣医師



本検査に関するお問い合わせ

株式会社 bio medical

MAIL　customer@bio-medical.jp

LINE



消化・吸収機能
検査結果

高 A B C **D** E 低

口腔・食道　胃　腸

この項目は食べたものを体に取り込み
日々の元気へ変える力の状態を示しています。

仮に結果が思わしくなくても
必要以上に心配することはありません。
まずはフードを定期的に見直し
体に合う組み合わせを探ることから始めましょう。

飲み水にもこだわることで、
日々の土台づくりとなります。



解毒機能
検査結果

高 A B **C** D E 低

腸　肝臓　腎臓

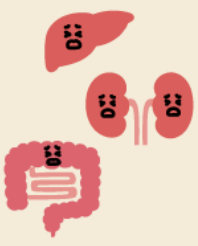
この項目は、体にとって不要なものを処理し
外へ出す働きの状態を示しています。

消化・吸収機能と同様に
食事や水の質を整えることが基本になります。
あわせて、腸内環境を支えるケアを取り入れる
ことも一つの方法です。

無理なく続けられる方法で整えていきましょう。

解毒機能不全による影響

- 疲れやすい
- 皮膚トラブルが起こりやすい
- お腹の不安定さ
- 体重が増えやすい／落ちにくい
- においが強くなることがある



解毒機能を整える方法

- フードを定期的に見直す
- 体に合わない食材を避ける
- 水の質を整える
- 腸内環境をサポートする



解毒機能について
詳しい説明動画は
コチラから



食物不耐性
検査結果

肉類

牛肉	鹿肉
牛レバー	ラム肉
豚肉	マトン
鶏肉	ヤギ肉
七面鳥	子牛肉
ガチョウ肉	ウサギ肉
雉肉	鴨肉
ウズラ肉	馬肉

魚介類

鮪（マグロ・ツナ）	メカジキ
鮭（サーモン）	ニシン
鱈（タラ）	ニジマス
鰯（イワシ）	鯉（コイ）
鮃（ヒラメ）	鯖（サバ）
鰻（うなぎ）	蟹（カニ）
鮎（ナマズ）	海老（エビ）
鰡（ボラ）	

乳製品類

卵	うずらの卵
卵白	牛乳
卵黄	ヤギミルク
ガチョウの卵	

穀物類

米	とうもろこし
小麦	大麦
大豆	タピオカ

野菜類

きゅうり	キャベツ
ブロッコリー	トマト
にんじん	じゃがいも
かぼちゃ	

不耐性による体への影響

- お腹がゆるくなりやすい
- 皮膚がかゆくなりやすい
- 元気に波が出やすい
- 毛づやが落ちることがある
- 体重の変動が出やすい



不耐性との向き合い方

体に合わないものを避けながら、日々のごはんの内容を定期的に見直すことで、体のバランスは少しずつ整っていきます。その子に合う組み合わせを探していきましょう。



食品不耐性について
詳しい説明動画は
コチラから



フード相性
検査結果

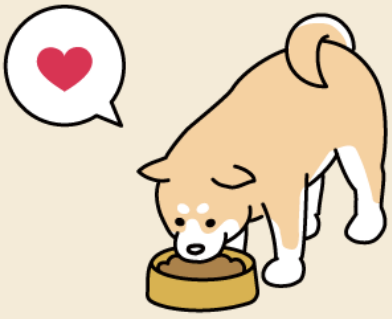
フード1	フード2
◎	△
	

◎ 適合しています　○ 注意傾向があります　△ 負担傾向があります

この項目は、現在の体の状態とフードとの関係傾向を示しています。
特定のフードの品質や優劣を評価するものではありません。日々の食事を整えるための参考指標としてご活用ください。
※体調や環境の変化により結果は変動することがあります。

食事管理のヒント

- 与えているフードの原材料表示を定期的に確認する
- 体重や便の状態など、日々の変化を観察する
- 変更する場合は、少量ずつ混ぜながら移行する





検査結果の活かし方

… 愛犬・愛猫と健やかな日々を過ごすために …

今回の検査結果は、今の体の状態を知るためのものです。
大切なのは、「完璧な正解」を探すことではなく、体への負担を一つずつ減らしていくことです。
小さな積み重ねが、将来の健康寿命につながります。

Step 1
食事を整える

開始目安：日々の食事から

- 不耐性傾向の食物を避ける
- 相性傾向を参考にする
- 一定期間ごとに見直す

食事の見直しは、
消化・吸収および解毒機能への
負担軽減につながります。

※フードを急に切り替えると、消化酵素や腸内細菌が新しい内容に適応できず、軟便などがみられることがあります。変更する場合は、少量ずつ混ぜながら数日かけて移行してください。



Step 2
水を整える



開始目安：日々の水から

水は体内環境の基盤です。
体内での水の移動を担う仕組み
（アクアポリン）に着目した水も
選択肢のひとつです。

アクアポリンとは >

水分環境を整えることは、消化・吸収や
代謝環境のサポートにつながります。

Step 3
必要に応じたサポート

開始目安：様子を見ながら

食事と水の見直しを基本とした上で、
腸内環境などをサポートする製品を
活用する方法もあります。

目的は「足すこと」ではなく、
体が本来の働きを保てる環境を
整えることです。



サポート方法の
詳しい解説はこちら >

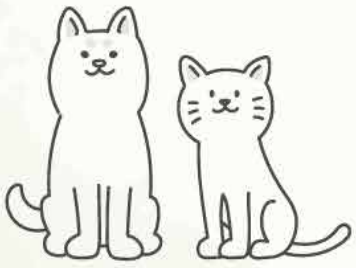
腸内環境や消化のサポートなど、
体調を整えるための
さまざまな方法があります。
詳しい考え方はこちらから
ご覧いただけます。

医療機関との連携（随時）



生活改善と並行して、強い症状がある場合や
改善が見られない場合は
必要に応じて獣医師へご相談ください。

RESONA-LAB



生命の状態を知ることは

より良い選択の始まりです。